

特集 全日本仏教徒会議島根大会報告



花まつり

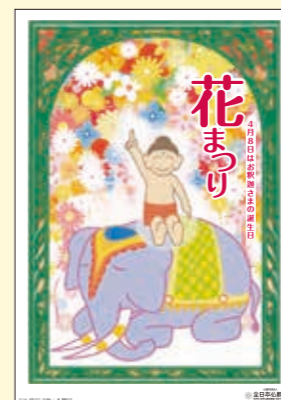
ポスター・絵はがき 頒布・配布開始

花まつりデザイン応募作品から作成いたしました!!

全日本仏教会では「花まつり」の社会宣揚を推進すべく花まつりポスター・絵はがきを頒布・配布しています。2021年に第5回を迎えた花まつりデザイン公募も仏教行事「花まつり」を題材に自由に描いていただきました。国内外から122点の応募をいただき、その中から大賞に選ばれた作品でポスターと絵はがきを作成いたしました。地域や寺院で開催される「花まつり」や春のイベント告知に、新春のご挨拶や感謝の気持ちを伝えるツールとしてご活用いただくと幸いです。皆さまからのご注文、お待ちしております。また、少数でもお気軽にご注文ください。



釈迦誕生仏



「花咲く中で、ひと休み…」



「だいすきおしゃかさま」

◆ポスター：
1枚50円
(※別途、送料が必要です)
◆サイズ：A2



「花咲く中で、ひと休み…」



「だいすきおしゃかさま」



「はなばな」

◆絵はがき(3枚1組)：無料
(※別途、送料が必要です。)

絵はがき大賞とポスター大賞作品

在庫に限りがありますのでお早めの申込をお願いします。

皆さまの花まつり・春のイベントを紹介します!

本会Webサイトでは全国の「花まつり」や春のイベントを紹介したく、開催情報をお待ちしております。一人でも多くの方に「花まつり」を知っていただき、お釈迦さまのご誕生を皆さんでお祝いいたしましょう。

【お問い合わせ】

広報文化部

TEL:03-3437-9275 FAX:03-3437-3260

E-mail:kouho@jbf.ne.jp

※申込用紙は本会webサイトよりダウンロードいただけます。(http://www.jbf.ne.jp/)

全日本仏教会

検索

<http://www.jbf.ne.jp>

発行人 木全和博
発行所 公益財団法人 全日本仏教会

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階

TEL:03-3437-9275 FAX:03-3437-3260

e-mail:info@jbf.ne.jp



全仏 652 号
CONTENTS

新年のご挨拶 3

大谷 光淳 / 公益財団法人全日本仏教会会長
戸松 義晴 / 公益財団法人全日本仏教会理事長

特集

全日本仏教徒会議島根大会報告 4

講演

「仏の心を稽古する」 6

釈徹宗 / 相愛大学副学長・土真宗本願寺派如来寺住職

寄稿

「大会を振り返って」 14

清水谷善圭 / 第45回全日本仏教徒会議島根大会 会長・島根県仏教会会長

宗教法人運営のための法律入門

宗教法人が行う社会貢献活動(1) 15

『全仏』誌論説委員のページ 16

内藤麻里子

年賀交換 20

本会からの報告 32

- ・第35期会長・副会長決定
- ・第5回花まつりデザイン大賞発表
- ・第33回理事会報告
- ・TOKYO2020オリンピック・パラリンピック仏教ボランティア
- ・第34期第3回広報委員会
- ・祐天寺フードパントリー開催
- ・救援基金寄付者一覧
- ・賛助会員新規入会者一覧(令和3年9月1日～)

新年のご挨拶

公益財団法人全日本仏教会会長 大谷 光淳



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
近年、わが国では台風や豪雨等の自然災害が相次ぎ、また、世界的に見ても新型コロナウイルス感染症は未だに収束の見通しが立たない状況が続いています。ここに災害や感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災され、あるいは感染症に罹患されたりして、今なお困難な生活を強いられている皆様にご心よりお見舞い申し上げます。また、私たちの命と生活を守るために日夜、懸命に職務に努められている皆様の方々に深く感謝の意を表します。

今、世界には武力紛争や経済格差、気候変動、差別を含む人権の抑圧など解決困難な課題が山積しています。さらに加えて新型コロナウイルス感染症がもたらす不安や生きづらさの中、多くの方が悩みや苦しみを抱えておられます。そうした中、昨年、「異文化理解と共存」「仏の心を稽古する」をテーマに第45回全日本仏教徒会議島根大会が開催され、私たち一人ひとりが仏の大悲心を学び、お互いの違いを認め合って共生していくことの大切さが改めて確認されました。

仏法は国や地域、民族、また時代を超えてこの世界の真相、縁起や空・無常・無我といったありのままの真実を明らかにし、苦悩を超えて生きていく道を教えるものです。このような時代であるからこそ、私たちは仏法の真理観を国の内外に広く伝え、すべての人々が心豊かに生きられる社会の実現に努めてまいります。

公益財団法人全日本仏教会理事長 戸松 義晴



令和4年の新春を迎え、謹んでお祝い申し上げます。
日本では昨年10月より、新規感染者数は激減してきました。しかしながら、未だ終息しないコロナ禍で、世界中の人々が厳しく辛い思いをされています。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げるとともに、感染された皆さまの一日も早い回復を祈念いたします。

コロナ禍は日本社会にも大きな影響を与え、多くの方々が仕事を失い、社会的、経済的に苦しんでいます。自殺者数の増加という目に見える形であらわれだしたのが昨年でした。私たち僧侶が担う弔いの場においては、手を取って大切な人を看取ることができず、親しい人々が集い亡き人への思いを共有することもできない状況が続いています。中には、収骨もできず死の実感を抱けないご遺族の方もいらっしゃるでしょう。

このような時こそ、今まで以上に仏教者が力を合わせて、不安な思いに苦しむ方々に寄り添うことが求められています。貧困、格差などに苦しんでいる方々に、それぞれの環境でできる具体的な手立てを講じなければなりません。また、災害に備え地域の方々へのちを守るためにも、寺院は門戸を開き、防災、減災に取り組むべきでしょう。

一日も早いコロナ禍の終息を、諸宗教で心を合わせて祈願いたすとともに、全日本仏教会では使命を胸に、皆さまが希望を持ち、前を向いていけるよう事業を推進してまいります。本年も、本会に対して変わらぬご指導をお願い申し上げます。

異文化理解と共存——仏の心を稽古する——



まだ暑さの残る令和3年10月2日、島根県の松江市にある島根県民会館において、第45回全日本仏教徒会議島根大会が開催されました。

全日本仏教徒会議は、昭和29年に和歌山県の高野山で第1回が行われてから全国各地で開催されてきました。本会と加盟諸団体にとって重要な大会です。第45回を迎えた島根大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により1年の延期を余儀なくされました。また直前の8月には、全国的な新規陽性者数が1日で2万5千人を超える日もある中、開催そのものや方法をめぐってギリギリの決断を迫られるなど、これまででない状況における大会となりました。当日は、観客を会場には入れずにオンラインでの放送に限るという仏教徒会議としては初めての試みがなされましたが、実行委員会の皆さまの入念な準備により、まったく滞ることなく進みました。大会長である島根県仏教会会長清水谷善圭師をはじめとする皆さまには、心より御礼申し上げます。

さて、今大会のテーマは「異文化理解と共存——仏の心を稽古する——」。出雲大社をはじめ

とする歴史ある神社が多くあり、古事記等の神話の舞台となっているため、島根県は「神々の国」とも称されます。一方で、石見神楽に代表される神楽は仏教と切っても切れない関係にあるほか、松江市を中心に禅の影響を受けた茶の湯の文化が根付いているように、仏教の影響も少なくありません。古代から「神と仏」が共生し、豊かな文化を育んできたこの島根県から、異なる思想や風習を理解し、共存への意識を高めるための「慈悲心」を鍛錬する場としたいという思いのこもったテーマです。

大会は、前日に「世界平和を願う・リレー行脚」が会場に到着するところから始まりました。み仏の願いをみんなですなでゆくとタスキと、東北の復興祈願の願いのこもった福島の桜の苗木を、前回大会の福島から島根まで各宗派で協力して運ぶという企画です。しかし、コロナ禍における感染対策によって、東京、



京都や島根の寺院を巡る形に大幅に変更して行われました。実行委員会の皆さまの、この状況下でもできる形でなんとか実現させたいという思いも乗せたりレーでした。

清水谷善圭師を導師とした開会法要と、実行委員長の伊東充伸師を導師とした「世界平和を願う法要」が執り行われた第1部、開会式典の第2部に続いて、第3部では相愛大学の宗教学者で、浄土真宗本願寺派・如来寺住職の釈徹宗



師による「仏の心を稽古する」と題した講演が行われました。そして、第4部では「我々仏教徒は釈尊のみ教えを守り、常に『ゆるしあう心』『互いにゆずりあう心』『慈しみあう心』を稽古し、地域の平安、世界の平和を求め『己を忘れ、他を利す』生活が続けることを誓います」との大会宣言が採択され、仏旗は次の開催地である山梨県仏教会へと手渡されて、幕を閉じました。



次ページより釈徹宗師の講演の模様をお届けします。コロナ禍によって生じた問題と、それに対する仏教徒としての考え方に、多くのヒントを与えてくれる講演です。

最後に、大会長の清水谷善圭師より、大会を振り返っての寄稿をいただきました。心より御礼申し上げます。

仏の心を稽古する

相愛大学副学長
浄土真宗本願寺派如来寺住職

釈徹宗

1. 二項対立の罣

新型コロナウイルスの感染状況もやや落ち着きぎみですが、このまま終息するのか、それとも第6波がくるのか、専門家でも意見が分かれるところ。このような事態に仏教は何が語れるのか。何を語ろうとするのか。何が提示できるのか。仏教特有の発言すべき態度はあるのか。昨年の春から自分なりに考え、機会があることに発言しているんですけども、ひとつ「二項対立の罣に嵌まるな」と言えるんじゃないかと思うんです。

対立した2つのものから選択する図式にどうも嵌まりやすくなっている気がするんですね。イスラエス感染由来だそう。毒性の強いウイルスに感染するのはすごく大事なことです。でも、今とにかく感染症対策で清潔にという傾向がもし過剰に強くなれば、神経症的な社会にならないかなと思っているんです。

私、夕方のニュース番組で相談コーナーやっていますね。この1年半はものすごい数のコロナ関係の相談がきます。この前こんながありました。お母さんが赤ちゃんを連れて公園に行く。すると知らないおばさんがまあ可愛いと言って近づいてきて、赤ちゃんの手やほっぺを触ったり……。止めて欲しい。感染症が怖いから、なんとか角が立たずに断る方法はありませんかと。

一緒にいた回答者が上手に答えていたのですが、それを聞きながら、そういう姿勢で子育てする問題点はないのかなと思っただけです。現在では確かに知らない人に触られるのは憚られる状況ではあるんですが、子どもはいろんなものに感染して免疫システムを構築していかなきゃいけないわけ。ところが清潔を目指すことによって、システムが出来上がらないことだってあるんじゃないかと思えます。そんな風を育って、つり革を持ってないとか、おつりの小銭を受け取れないとなると、社会生活自体が難しくなりますし、極端になると自分以外はみんな汚いというメンタリティーになりかね

エルの歴史学者、ユヴァル・ノア・ハラリは「コロナ後の世界は感染対策という建前を利用して監視社会の傾向が強くなるのではないかと警告を發しています。プライバシーか健康かという誤った設定に我々は嵌まってしまっているんじゃないかと思っ

強権的な施策と民主主義的な手続き

界各地で随分起こっているんじゃないかと思っ

うか。民主主義的な手続きは時間がかかります。感染症の場合、超法規的に強いリーダーシップで事に当たるべきだ、そうでないと間に合わないと感じる時があったように思いますし、実際に強権的なやり方の国の方が対策がうまくいっているような印象を受けることもありました。でもこれ、どっちか取ってどっちか捨てる話じゃないはずですよ。こういう図式です。

清潔と免疫

例えば、強権的な施策と民主主義的な手続き、全体の利益と個人の自由。相反するどちらかを選ばされるように感じになられたことないでしょ



ない。だから清潔と免疫は、どっちかを取ってどっちかを捨てるという話ではないんです。

矛盾したものを矛盾したまま

こういうのはたくさんありまして、コミュニケーションとデイスタンス、都市と地方。あるいは経済と健康とか、いずれもどっちかを取ってどっちかを捨てる話ではないはず。こういうある種のジレンマ、お互いが確かにちょっとぶつかり合うものですね。

分かりやすい理屈に飛びついて、2つから一方を選ぶんじゃなくて、矛盾したものを矛盾したまま抱えながら、いかにこの隙間を埋める要素を増やしていくか、橋をかける回路を増やしていくかが本来大事なはず。

ナーガールジュナの教え

仏教は古来、二項対立の罠に嵌まるな、そこから離脱せよと説いてきました。それは言語ゲームだと言っています。

この理屈を完成させたのはナーガールジュナという南インド生まれのお坊さんです。日本では龍樹、龍樹菩薩、龍樹さまなどと呼ばれますが、第2の釈迦と言っているような存在ですね。

的な活動は、どんどん縮小傾向、自粛傾向にあります。

それが一年以上続いているのですが、一方でユダヤ教のハシードと呼ばれる超正統派の人たちは、信仰に生きるんだと主張し続けて、ワクチンも打たないしマスクもしないそうです。それでイスラエル政府が集会に介入するというのが起こっています。ヒンドゥー教の一部にもそんな動きがあります。牛のおしっこを飲んでいれば大丈夫という主張をする人もいます。日本でも幸福の科学が昨年、神への信仰があれば大丈夫という主張をしました。このような動きが宗教の本質に関わるのは確かです、我が身を賭して信仰に生きるという面が宗教にはあるんです。全てを受け入れるというような、いわば宗教ならではの地平。カミュの『ペスト』のパール神父がそういう人でした。信仰に生きて最後ペストにかかって亡くなってしまおうという人物描写でした。

宗教的な向き合い方としてそういうのは古来ありますよね。良寛さんは「災難に遭う時節には災難に遭うがよく候、死ぬ時節には死ぬがよく候、是はこれ災難を逃るる妙法にて候」とおっしゃっていますし、法然上人は「生ければ念仏の功つもあり、死なば浄土にまいりなん。とてもかくてもこの身

今、この二項対立の問題を徹底的に考えた龍樹さまの教えをしつかりもう一度学び直したい、そんなふうに思います。例えば今回、マスクは象徴的なアイコンとなりました。私も付けて出るのにすっかり慣れて、たまに忘れると取りに帰るようになりました。そうすると自分でも驚いたことがあったんですね。マスクしていない人が非常識に思える自分がいたんです。たかだかマスク付けただけで、付ける側と付けない側の対立って起こるんだと。下手すると強い怒りにまで展開したりしましたよね。

私たちの脳はどうも二項対立で考えるのが得意なんです。得意というか脳の癖と言っている。損か得か、敵か味方か、役に立つか立たないか、マスクしているかしていないか、という図式で物事を認識するようになってくる。ここに注意しないと苦しみや憎しみ、怒りの連鎖が始まると仏教は説いてきました。その連鎖は結果的には自分自身の苦しみを生み出すわけです。

社会の分断と仏教徒としての態度

今、社会が分断している感じがしませんか。もっと規制を厳しくしろ、飲食店はけしからんと言う人と、コロナなんかただの風邪だから制限とか自粛を批判する人もいます。不安と恐怖で家から出ら

には、思い煩う事ぞ無き」と宗教的態度として究極のところをおっしゃっておられます。あるいは永観という人は、病は自分を仏道に導いてくれる善智識だと言っています。この人は病の中に新たな仏教的な価値観を見いだしたということですね。

宗教というのは世俗の価値だけに生きるものではないので、命を賭けて求めるものがある。それは間違いないんですが、だからといって世俗と向き合うことをおろそかにして良いわけではないと思います。信仰信心を軸として、いかにこの世俗を生きるか、常にそこへと立ち返る。それが大切であって、究極の境地を表現した言葉だけを振り回すと原理主義的になってしまうということです。今、この状況下で宗教はどうすべきかという問題に関して是非考えていただければと思います。

昨年、日本赤十字社は新型コロナウィルス3つの顔として、感染には3段階があると発表しました。1段階目はウィルスの感染。2段階目は不安や恐れ、そして3段階目は排除、攻撃、差別、偏見の感染。

仏教は、この世俗の出来事は縁起の法則によって連鎖を続けていくと考える立場に立ちます。苦しみや憎しみや怒り、偏見、排除、攻撃の方向へと連鎖しないよう、二項対立に足をすくわれないよう、一個一個の事象を丁寧を受けとめて向き合っ



れない人も結構いる一方で、全く気にしないで今まで通り生活している人だっています。ワクチンは強制的に全員打つべきと言う人もいれば、個人の自由だ、国家の陰謀だと言う人もいます。

宗教の領域でも同じようなことが起こっていて、世界的には宗教は自粛をしています。しかし宗教は人を結びつける力が強いですから、本来密なものです。昨年、韓国の新天地イエス教会の集会で大規模なクラスターが起きました。そんなこともあって、昨年の5月にWHOが世界の宗教者に対して、ガイドラインを発表しました。今は集うべき時ではないという内容でした。これを機に宗教

ていく。先ほども言いましたように、矛盾したものの一方に安易に飛びついたり、分かりやすい理屈や説明に飛びついたりしないよう、両方の項目を、たとえ矛盾していても抱えたまま、双方の溝を埋めようと工夫。そこに仏教徒としての態度があるんじゃないかと考えております。それがひとつです。

2. 柔軟心

赤十字の3つの感染にあったように、不安とか恐れがあると人は排除したり攻撃的になったりします。

仏教は柔軟な心、「柔軟心」を説いています。親鸞上人も道元禪師も大変重要視した教えです。『無量寿経』というお経には、48の菩薩の誓いが出てきます。その33番目は「触光柔軟の願」とか「身心柔軟の願」と呼ばれています。仏の光に照らされると身も心も柔らかくなるという教えですね。身体が柔らかくなるというのがなんとなく面白いと思うんですが、心が柔らかくなるのはどういうことでしょうか。それは仏の教えに照らされて、ああなんて頑なだったんだと気付かされていくことですね。現代人はどうしても心が萎縮して固くなりがち。そうするとイライラしますし、生きづらくなります。

現代人にとっての時間

原因のひとつに現代人の時間の問題があるように思っています。体と心に流れている時間が萎縮している。考えてみたら、現代人は一昔前の人よりも時間が余って当然とは思わないでしょうか。以前なら何日もかかる距離をあっという間に移動できます。時間がかかった作業、水や火を使うにしても、かつてとは格段の差があるわけです。その分時間が余ってしかるべきですが、現代の方が明らかに忙しい。昔はもうちょっとのんびりしていたように思います。

お芝居や芸能を観たりするのも大体1日ばかり。ご法事もそうでした。お年忌が2日ばかり、お通夜も2日間、野辺送りもあつて何日もご葬儀に時間がかかる。今はほとんどなくなっています。本来時間が余るべきなのに、現代の方が忙しい。これは物理的な時間をいくら余らせてもダメだということなのです。

物理的な時間と身体に流れる時間

これ私、ギリシャ神話から取ったんですが、外に並べられている物理的な時間のことを「クロノス」、

なきやいけないスタッフと給与は全然変えていません。ずっとこのやり方ですけど、この件に関しては一度もクレームが来たことがないんです。他のことなら結構言ってくるんですけど、この件に関してはない。どうもあまり気にならないみたいなんです。というのは、今しんどいこの人を小さい時から知っているし、お父さんお母さん、下手したらおじいちゃんおばあちゃんも知っているし、子ども同士が同級生とか、この人との関係性の時間が長い。長いとちょっとした凸凹が気にならない。でも会社でしか合わない人間関係だと、こんなものでしょ（手の間隔を短く詰めながら）。それだとわずかな凸凹も辛抱できなくなるんですよ。

カイロスを減らす現代社会

現代社会はカイロスが短くなる装置ばかりが増えていきます。SNSだつてすぐに返事を返さなきやいけないと追い立てられている学生いますよ。あるいはコンビニのレジで待たされるとイライラしますよね。なぜならコンビニはレジで待たせないシステムを構築したからです。その中で待つからイライラする。電車の券売機などもそうですよね。そうやってカイロスが短くなる装置はどんどんできていくのに、長くなる装置は減る一方です。

心と身体に流れている時間を「カイロス」と呼んで区別しているんです。もともとこれを言いだしたのはパウリティリッヒという哲学者ですが、クロノスをいくら余らせてもカイロスが縮んでいたら忙しいし、イライラするわけです。だからカイロスをいかに伸ばすかが、現代人のテーマだと思うんです。

カイロスを伸ばすために

人間は長い時間の中に生きてるとちよつとした凸凹はあまり気にならない。でも縮んだ時間生きてるとちよつとした凸凹にイライラするし、我慢ならないということが起こります。

カイロスを伸ばすのは、やっぱり宗教です。宗教では見えない世界に心を伸ばしていかなきゃならないんですが、心が柔らかくしないとできないんです。神仏へと思いを馳せる、祈る、願う、儀式を営む、亡くなった人へと心を伸ばしていく。これがカイロスを伸ばしますし、また武道とか芸道も伸ばすと思います。宗教と同じような理屈です。生涯かけて歩み続けるから時間が長いですよ。

先月、文楽の三業の人たち、人形遣いとか太夫とか三味線の方とお話する機会があつて、人間国宝の桐竹勘十郎さんとか、豊竹呂太夫さんとか

人類史上、最もカイロスを伸ばす装置は何か。宗教儀礼です。大きな命の流れや長い時間の流れの中に身を置く。それによって我々、カイロスが伸びるんです。こちらの松江とか出雲の辺りには百回忌とか二百回忌も務められる家があるらしいんです。すごいなと思いましたが、亡くなった方を知っている人、誰もいないですよ。全員顔も見ることのない人のために集うんです。その場に身を置く。やっぱりカイロスが伸びてゆく。そういうことだと思います。

3. この一瞬を変える

今日は「仏の心を稽古する」というテーマで二項対立の畷と柔軟心というお話をさせていただいているんですが、いずれも日常生活で繰り返すことによって次第に身体に備わってくる点ではまさに稽古という表現が合うかもしれないですね。

ハビトゥスによって編み上げられた私

仏教では、私という存在は心身の営みによって刻々と変化しながら形成されていると考えます。これを現代思想の用語を使って、私という存在は「ハビトゥス」によって形成されていると表現して

鶴澤清介さんとか、いろんな人にお話聞いたんですけど、みんな共通しているのは、あんまりコロナを気にしていません。次々と公演中止になっていくので、大変辛いお話が聞けるのかなと思つてたんですけど、それどころか「普段だと公演の役を追いかけるので一杯一杯、ずっと追い立てられてきたけれど、コロナのおかげで普段できないお稽古したり、基礎に戻って浚ったりできてるんで、いやー最近文楽わかつてきたんですよ」と言うんですよ。本当に長い時間の中で生きてるんだな、この人たちはって思いましたね。

また私、住職をしているお寺の裏の空家でグループホームを運営しているんです。もう20年になります。そこに認知症の方が5名から8名くらい暮らしておられる。スタッフが暮らしをお手伝いするんですが、ほとんどうちの「ご門徒さん檀家さんです。お寺の周りにはみんな檀家さんで、昔ながらの村というような田舎です。みなさん喜んで働いてくださっているんですけど、他ではなかなか働き口がない精神疾患を抱えている方も積極的に雇用しているんです。

鬱の方には波があつて酷い時など出勤しても何もできない。じつと座っているだけ。認知症のおばあちゃんに「あんた大丈夫か、元気だしや」と励まされている。しかし、その人とその人の分まで働か

みようと思つています。

ハビトゥスはよく習慣などと訳されるんですが、現代思想ではもっと多義的に使います。有名なのは社会学者のピエール・ブルデューが言い出した概念です。反復されることによって次第に身に備わる能力という意味で彼は使っていますが、仏教的に使うと、「私という存在はハビトゥスによって編み上げられた存在である」という表現が可能だろうと思います。このハビトゥスを整える稽古に関しては、仏教は膨大な智慧を持っていると言えます。例えば五戒の教えがありますよね。原語はパンチャシーラと言います。パンチャが五、戒はシーラです。シーラは習慣付けけるというような意味になります。

ハビトゥスを整える

仏教にはハビトゥスによって自分の心と身体を編み上げていくという思想的特徴があるろうと思います。我々仏教徒が目指す稽古の方向性は、自分を大切にすることは他者を大切にすることであり、世界を大切にすることである。世界を、他者を大切にすることは、自分を大切にすることであるという方向性です。

『華嚴経』には「一切の世界海は、世界海の塵の数の因縁有りて具わるが故に成ず」「二々の微塵の

中に仏国海が安住し、仏雲遍く護念し、弥綸して一切を覆う」と述べられています。この世界を構成している微塵の中にまた世界がある。私を形成している細胞の中にも全宇宙があって、その中にまたそれを構成している微塵があって、という無限マトリョーシカみたいな思想。法界縁起と申します。これは私に良いことがあなたに良い、世界に良い。そういう営みを考えていく方向性と言えます。

例えば日常生活のちょっとした消費活動だつてその視点で考えると工夫もあるように思うんです。同じ品物が2つあったら、より環境に良い方を選択するやり方だつてあるでしょう。サービスを受ける時に、同じようなものが並んでいたら、社会に貢献している方の企業を選択することだつてあり得ますよね。小さな一歩ですが、自分に良いことが世界にも良い、とつながるうかと思えます。

和顔愛語

もつと身近なことで言いますと、穏やかな態度と慈しみの言葉。ハビトウスを整える第一歩がここにあると言えようかと思えます。

『無量寿経』に、「和顔愛語」と出てまいります。道元禅師は「愛語よく廻天の力あることを学すべきなり」とおっしゃっておられます。慈しみの言葉

ける言葉を使いたくない」と。人が喜ぶようなことばかり言いたい。この世界が輝くようなことばかりしゃべっていきたくいと。愛語ってそういうことやなど教えられた思いがいたしました。

何もできないとわかった時に始まる

この一瞬どう思考するか、どんな態度を出すか、どんな言葉を語るかによって次の瞬間が決まると仏教では言います。だからこの一瞬を変えれば次の瞬間が変わる。新型コロナで世界は変わろうとしています。元に戻ることはありませんし、元の世界がものすごく良かったわけでもない。少なくとも変わる、どうせ変わるなら良いものへと変えよう。そういう我々の志を大切にしたいと思えます。

振り返ると東日本大震災の時には、宗教に何ができるのかというテーマでシンポジウムや研究会がよく行われていたんですけど、新型コロナはもう1年以上になるのにそのような動きは見られません。ある意味、何もできない感に我々直面しているのかもしれない。そうであればここから始まります。

哲学者の久松真一が何もできないと徹底的にわかった時に何するんだ、というのがすべての禅の公案のテーマだと語ったことがありました。そこから

は世の中を変えるだけの力があるんだということ。実践的でもあり我々が今から踏み出せる一歩でもあろうかと思えます。

かつてコロナビアトップ・ライトという漫才師がおられました。トップさんが面白いことを言う人、ライトさんはキチツと髪を七三に分けてスーツきっちり着て「やめなさいって」と横で言っている人でした。トップさんは参議院議員になられてコンビ解散になりました。ライトさんは仕事がなく なっちゃったわけです。そこでどうやって生きていこうと考えて、この風貌だから司会に向いているのではということ、小さな仕事から技術を積み上げて、ついには大きな舞台の司会をするまてになつたんですが、声帯を取らなきゃいけない病気にか かつちゃうんです。

お医者さんに、私は司会者なので声帯を取らなくなるとかなりませんかと言ったら、すごく叱られたそうです。君の病状はそんな甘いもんじゃありません。一刻も早く手術しなければならぬ。声帯を取っても機械で声は出せるということも教えてくださつたそうです。でもそれではとても司会に雇ってもらえないと相談したら、じゃあ食道発声に挑戦しますか？と言われたそうです。

口や鼻から入ってきたものは食道と気道に行く道、2つに分かれています。気道は肺につながって敷衍すると、コロナを通じて何もできない時に何をしようかという公案を我々は突きつけられているのかもしれない。我々仏教徒は死や病に向き合うことをずっと習ってきましたし、何千年にもわたってテーマにし続けてきました。2年や3年、たいしたことありません。感染症は全員が当事者ですから部外者がいないんです。エボラ出血熱やマーズ、サーズの時、我々他人事だつたでしょう？でも今回は徹底して自分事だと詳らかにになりましたよね。昨年、アメリカでは貧困層に新型コロナが拡大しているというニュースがよく流れていましたが、結局富裕層にも感染するんです。世界のどこかが苦しんでいる限り、決して自分の国は安心できないのが感染症です。その意味では今仏教が最初期から説いてきたフェアとシエア。この心を仏教徒は伝えていけるんじゃないかと思えます。

最後にもう一度お伝えしますと、仏法と出会って自分の心は頑なだつたと気付いていく、その繰り返しです。つい心が萎縮して自己中心的になり二項対立の単純な理屈に飛びついてしまうのが私というものです。そこを仏法を通じて見つめ直していく。柔軟心の教えに耳を傾ければ、自分のことを考えることは他者を考えることであり、他者のことを考えることは自分を考えることであると

いて声帯がついています。空気の出し入れで声帯が震えて声が出る。そこは取らなきゃいけない。もう一つは胃につながる食道の方。そこを使って声を出せるらしいんです。その手があるけど挑戦しますか？けどいばらの道ですよという説明を受けて、そこに奥さんが一緒にいたんですが、ライトさんの手を握って、私も協力するから挑戦しようとなり、手術を受けて、すぐにトレーニングが始まったんですが、やっぱりなかなか声が出なかつたんです。でもともと病気ですからしんどいわけですよ。それでも休めない、声は思うようにならない、イライラする苦しい日々。奥さんが褒めたり叱ったりなだめすかしたりしながら続けていたんです。ある時なんか、家で寝ていて、ちょっとそれ取ってくれと指さしてやったら、奥さんが心を鬼にして「お父さん、何を取ってほしいか、ちゃんと声に出して言ってくださいね」と取りません」と言ったらしんどいですよね。そうしたらもうカーツとなつてそこにあったものを奥さんにおつけたこともあるとおっしゃっていました。

私がラジオでこのお話を聞いた時は、ストレスなくしゃべっておられました。その時に言うてはつたんですよ。「この声は第二の声だ。第一の声は気がついたらしゃべっていたのでありがたいとも思わなかつたけれど、この第二の声は私と妻とが血と涙でやっとな手に入れたものだから、これで人を傷つ

いのは、感染症ではハッキリわかりますよね。どの領域の方もみなさんご苦労されていることは存じておりますが、我々の暮らしを見つめ直す機縁でもあります。言葉や情報の畏に嵌まらないよう、どう隙間を埋めていくか、どう橋を架けていくか、その工夫を仏教徒がみんなやっていきましょう。自分の足下を見直す契機となればと、そんなふうにご考えております。

今日は、長時間ご清聴いただきありがとうございます。ありがとうございました。



宗教法人運営のための 法律入門

宗教法人の管理運営 16



宗教法人が行う社会貢献活動（1）

はじめに

宗教法人の行うボランティア活動について、その位置付けに変化がみられます。宗教法人が行う業務・事業は、その目的達成の為の業務とそれ以外の事業に分けられ（宗教法人法第1条）、後者は公益事業と公益事業以外の事業に分けられてきました（宗教法人法第6条）。

ところが、宗教法人が宗教施設を災害の避難所やボランティア活動等に提供したりすることが、その目的達成の為の宗教活動と位置付けることが可能であるという情報が文化庁宗務課から提供されました。

今回はその内容を紹介することにします。

●情報の内容的

文化庁宗務課が令和3年1月25日付で公益財団法人日本宗教連盟と都道府県宗教法人事務担当課宛に事務連絡した書面は「宗教法人が行う社会貢献活動について（情報提供）」と題されています。その頭書には、以下のように記されています。

「近年、多くの宗教法人が、全国的に自然災害が発生する中で地域の防災・復興に協力されるなど、災害対策や地域支援などの社会貢献活動を行われると承知しています。従来、このような活動の多くは、宗教法人法第6条に規定する公益事業として各法人で整理されてきたものと思われていますが、この度、日本宗教連盟からこのような活動と宗教活動の関係について問い合わせがあった為、宗教学に関する学識有識者の意見等も踏まえ、下記のとおり、考え方を整理しましたので、情報提供させていただきます。」

そして次のように記載されています。以下要点を紹介いたします。

「宗教法人法上宗教活動の定義は行われておらず、国等には宗教法人の宗教上の特性や慣習等宗教上の事項の尊重や不干渉が求められていること（宗教法人法第84条・85条）から、宗教法人が行う活動が宗教活動に当たるかどうかは、第一義的には各宗教法人の判断に委ねられていると考えられる。」

その理由として以下の3点をあげています。

1. 宗教法人法成立に伴う施行通達（昭和26年7月31日文宗第23号（「宗教法人に関する事務処理について（通達）」）においては「境内建物、境内地であって同時に公益事業を行うためにも用いられるものは、境内建物、境内地として処理して差し支えないこと」とされていること、
2. 逐条解説宗教法人法（渡部翁善）においては「（略）青少年の教化活動、孤児・難民の救済活動、社会の浄化活動等、通常いわゆる公益事業とか、慈善に関する運動として観念されるものももっとも本来的な宗教活動として把握されることのあることは、十分是認されよう。」とされていること、
3. 宗教法人制度の運用等に関する調査研究協力者会議主な意見等の概要（平成19年3月）においては、「歴史的には、宗教団体の行う公益事業は宗教活動の一部であった」（中略）いわゆる公益事業として行われている社会貢献活動も各宗教法人の判断に基づき宗教活動と整理することが可能と考えられる。

なお、各宗教法人が判断を行うにあたっては、以下の点に留意することが望まれる。

- 社会貢献活動が宗教活動に該当するか否かについては、教義または教義を具体化した文書等（教憲等）に基づき、各宗教法人の判断によるものとされることから、各宗教法人におかれては、根拠等を確認しておくことが望まれる。教義や教憲等は、宗教法人規則等と異なり、所轄庁への提出・認証、事務所への備付等はないが、各宗教法人の教憲等の定めや慣習に基づく取り扱いが必要になると考えられる。
- 「宗教法人法は、…宗教そのものについては定義規定を置かず、社会通念に委ねる立場をとっている。」（前記「逐条解説宗教法人法」）ことから、社会貢献活動を宗教活動と整理するにあたっては、地域社会の宗教活動へのニーズをはじめとした社会通念を踏まえることが重要と考えられる。
- 宗教活動は宗教法人をはじめとした宗教団体が行うものであることから、宗教団体以外の団体等が行う社会貢献活動を宗教活動と整理することは適当でないと考えられる。」

●日宗連の対応

これを受けて公益財団法人日本宗教連盟は、この情報の周知を徹底させるとともに論点整理とガイドラインを検討しているとのこととす。次回はこの点について紹介します。

作成・監修 弁護士 長谷川正浩

寄稿 大会を振り返って

全日本仏教会事務総局 3期にわたる足掛け5年をかけて準備した第45回全日本仏教徒会議島根大会は、12月3日の基調講演収録をもって予定していた作業の大部分を終え、残るは基調講演、シンポジウムを収録したDVDを関係者並びに視聴者にお配りするだけとなりました。この間、関係の皆さまから頂戴したご厚情・ご協力に対し、深甚の謝意を申し上げます。

当初は令和2年10月2・3日に開催予定であった本大会は、コロナ禍によりあえなく1年延期、その後令和3年になり、開催を目前にした8月から9月にかけては、全国的に感染状況が悪化する中、1日に短縮してでも対面開催を、との思いで準備をしまっていました。しかし、9月3日に会長のご来松がかなわなくなったとの通告を受け、オンライン開催に舵を切りました。会長のご臨席を前提とした運営方針を、大会まで1ヶ月を切ったところで大幅に変更したことには些か不安もありましたが、本県仏教会は人材の宝庫であったことが幸いしました。実行委員が各自の仕事を理解し、能力をフルに発揮したことで、手前味噌ながらも魔事無く見事に島根大会を円成することができたのです。

本大会は「異文化理解と共存～仏の心を稽古する～」をテーマとしましたが、振り返れば一番の稽古ができたのは私ども実行委員であったように思います。特に「理解と共存」のためには時間が必要であることを教えられました。未曾有の事態でやむを得ず延期となった1年間があったからこそ、互いに理解を深め、共に目標に立ち向かう心が育まれたように感じます。シンポジウムの中で師茂樹先生が「仏教は論争を好むが、論争とは相手を撃ち負かすことではなく、論争の中で互いの心に変化を促し、互いが理解し合う手法ではなかったのか」と発言されましたが、まさに互いが自分の思いを主張し合うことで理解と共存が進むことを、経験させていただきました。

本県での開催決定後、世界大会のために1年、コロナ禍で更に1年と延期が相次ぎ、結果として4年間の準備期間が与えられました。にもかかわらず最後まで一般仏教徒の方たちと協働できなかったことは、今大会で唯一の心残りです。世界平和を願う写経を発願し、2千願近い協力を得られましたが、思えば僧侶だけでなく一般仏教徒の方々にも広く大会の運営に携わっていただくべきでした。

今後の大会開催地の皆様におかれましては、ぜひとも早い段階から仏教徒会議のための組織を作り、僧侶と一般仏教徒が共に力を合わせる体制を整えていただければと思っております。こうした準備を経て、仏教の社会活動を考え、信仰運動のあり方を論じ、実践に結実することで、今日の法難は乗り越えていけるものと信じております。

末筆ながら、全日本仏教会、仏教徒会議の益々のご発展を祈念し、報告といたします。

第45回全日本仏教徒会議島根大会 大会長
島根県仏教会会長 清水谷善圭



文芸作品が映し出す社会

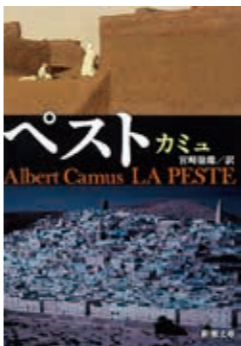
―コロナ禍を問い直す―

内藤 麻里子

新型コロナウイルス感染症に彩られた2年の歳月が明け、今年は何んな年になっていくのか、どうか落ち着いてほしいと願うが、この間に刊行された文芸作品はどのようにコロナ禍を映し出してきたのか。小説を中心に少しとりあげてみたい。それと共に、楽しめる作品をいくつか紹介しよう。

より切実な『ペスト』

まず、なんとと言ってもコロナ禍で話題になった



『ペスト』
カミュ著・宮崎嶺雄訳
(新潮文庫刊)

のは、アルベール・カミュの『ペスト』(新潮文庫)だろう。1947年にフランスで発売された同書は、第二次世界大戦の爪痕と記憶が濃く残る中で、ペストの災禍を大戦の暗喩としてとらえられた。日本でも近くは2011年の東日本大震災時に災禍の暗喩として注目された。

しかし今回は同じ感染症の問題であつただけに、より切実だった。そこには愛する者との別離があり、希望的楽観論が流れる。偏見による差別や、不条理に直面した心理、行動はどれも心当たりがある。70年以上前の人間性とあまり変わらないことに、人間はそうそう変わらないさと安心を見出すのか、進歩したはずの科学技術や人間の合理性に疑いのまなざしを投げるのか。ともかく一読をお薦めする。

短歌集、医師の告発も

ユニークな作品もある。東京・歌舞伎町のホスト75人が詠んだ短歌集『ホスト万葉集』(短歌研究社発行、講談社発売)がそれだ。第2巻まで出ている。こちらは80人が参加した。ホストと聞いてキワモノと思わないでほしい。いや、私も最初は手を出しかねた。なにせ第1巻の表紙には歌舞伎町を背にずらりとホストが並んでいるのだから。しかし、言葉を獲得した彼らの短歌は意外と



『ホスト万葉集 嘘の夢 嘘の関係
嘘の酒 こんな源氏名サヨナライツカ』
手塚マキと歌舞伎町ホスト75人
from Smappa! Group著・俄万智・
野口あや子・小佐野彌編
(短歌研究社発行・講談社発売)

心にしみたりするのだ。血(酒)と汗(反吐)と涙の結晶と言っている。

第1巻製作中にコロナの感染が拡大し、最終章にその時期の歌を集めた。『夜の街』とやり玉に挙げた人々の貴重な声ともいえる。そこから一首を挙げておく。

《歌舞伎町 東洋一の繁華街 不要不急に殺される街》

医師でもある作家が、背中を押されるように書いた小説もある。

『コロナ黙示録』(宝島社)は医学博士である作家、海堂尊さんが19年11月から20年5月までの様相を、それまで手掛けた医療ミステリーの設定を使って戯画的に描き出した。時期的にとても速い20年7月に刊行され、矢継ぎ早に第2弾『コロナ狂騒録』(同)を21年9月に出した。



『臨床の砦』
夏川草介著
(小学館)



『コロナ黙示録』
海堂尊著
(宝島社)

夏川草介さんは、ペストセラリーになった『神様のカルテ』(09年)で知られるが、長野県在住の医師でもある。自身が直面したコロナ診療の実態に黙っていられず『臨床の砦』(小学館)を執筆した。

消化器内科医を主人公にしたこの作品で、現場と政府の空気の乖離は、太平洋戦争の敗戦に重なるようなありさまを呈する。つまり「圧倒的な情報不足、系統立った作戦の欠落、戦力の逐次投入に、果てのない消耗戦」だ。コロナ診療に関与しない大規模病院の問題や、感染症病棟を確保したと言っても地域に開かれない病院など、いわゆる「幽霊病床」問題をいち早く指摘している。一般の診療とは異なるコロナ診療の内容や、医療関係者たちの加重勤務、医療崩壊の危機などが描き出され、読んでいると身にしみて実感される。

避けられない感染症

コロナ感染症はもはや、時代背景として避けては通れない。

例えば白石一文さんの『我が産声を聞きに』(講談社)は、コロナ禍の中で進む夫婦の別れを描く。肺がんの診断を受けた夫が、好きな人ができたので今後の治療はその人と取り組む旨を妻に告げ、出て行ってしまふ。感染症がちらつきながらも、



『コロナと潜水服』
奥田英朗著
(光文社)



『我が産声を聞きに』
白石一文著
(講談社)

それとは無関係に進行するすれ違いや事故、過去の記憶などを通して、現状がどうであろうと、いやおうなく展開する人生というもののありさまを教えてくれる。

奥田英朗さんの『コロナと潜水服』(光文社)には、軽いファンタジー色のある5本の短編が収められている。表題作となった「コロナと潜水服」は濃厚接触者となった父親が、妊娠中の妻や幼い子どもにうつさないためにとった窮余の一策が明るいトーンで描かれる。コロナ禍で起きた悲喜劇を象徴するような短編である。

冒頭に海外の『ペスト』を挙げたのだから、感染症を描いた日本の先行作も2作紹介しよう。

1995年に刊行された篠田節子さんの『夏の災

厄』（現在は角川文庫）は、未知のウイルスをテーマにしたパンデミック・ミステリーだ。隠蔽された謎を追うストーリーを軸に、後手に回る行政の対応、医療現場の奮闘と過剰反応、住民らの恐怖などが絡み合う。まさにこの2年を先取りした物語だ。

澤田瞳子さんの『火定』（2017年刊、現在はPHP文芸文庫）は、奈良時代の天然痘の大流行を題材にした。病に立ち向かう施薬院と、混乱に乗じる者たち、施薬院の下級官僚の成長と、朝廷の権力争いに敗れた者の屈託など、希望と絶望が交錯する。

この項の最後にアンソロジーを挙げておく。『Day to Day』（講談社）は、「小説の力で、（中略）心を明るくできますように」との願いを



『夏の災厄』
篠田節子著
(KADOKAWA / 角川文庫)



『火定』
澤田瞳子著
(PHP 文芸文庫)

込めて編まれた。20年4月1日から7月9日まで、掌編小説やエッセイを1日1本ずつサイトにアップしたものをまとめた。参加した作家は辻村深月さん、西尾維新さん、浅田次郎さん、東野圭吾さんら人気作家100人。小説やエッセイで希望を託し、現状を淡々と描いたり、告発したりしている。これには漫画家版もあり、こちらは『MANGA Day to Day』上・下巻（同）。ちばてつや、弘兼憲史の他、気鋭の漫画家たちが意欲作を載せている。

「小説の力」いろいろ

さて、「小説の力」というなら、この2年の間に、



『Day to Day』
講談社編
(講談社)



『MANGA Day to Day (上)』
講談社編
(講談社)

作家たちはコロナ禍には関係ないが充実した小説もたくさん書いた。読むと心が洗われるとか、熱中して読むあまり一時憂さを忘れるとか、小説の功德を味わえる作品をいくつか紹介したい。いずれも、とんでもなく面白いことを請け合おう。明日への活力が湧いてくると思う。

池上永一さんの『海神の島』（中央公論新社）は、沖繩出身の3姉妹が秘宝をめぐる、あの手この手の争奪戦を繰り広げる。笑いあり、お色気あり、



『逆ソクラテス』
伊坂幸太郎著
(集英社)



『海神の島』
池上永一著
(中央公論新社)

ハードボイルドあり、問題提起まである冒険活劇は無類の面白さ。

佐藤究さんの『テスカトリポカ』（KADOKAWA）は、メキシコで麻薬戦争に敗れた男が日本に来て臓器ビジネスを始める。虐殺と祝祭に彩られ、見たこともない日本が現れるが、既に実態はこうなのかもしれない。

砂原浩太郎さんの『高瀬庄左衛門御留書』（講談社）は、藤沢周平を彷彿とさせると今注目の時代小説だ。藤沢の海坂藩同様、架空の神山藩を舞台に、息子を亡くした郡方役人の生きる姿を端正な筆致で描く。

米澤穂信さんの『黒牢城』（KADOKAWA）は、本格ミステリーにして歴史小説。描くは籠城する



『テスカトリポカ』
佐藤究著
(KADOKAWA)



『高瀬庄左衛門御留書』
砂原浩太郎著
(講談社)

荒木村重と、彼にとらわれた小寺（黒田）官兵衛の濃厚な人間ドラマ。次々起こる事件を通して、緻密にダイナミックに人間心理に迫る。

朝井まかてさんの『白光』（文藝春秋）は、明治時代、日本初のアイコン（聖像）画家、山下りんの生涯を描いた画業小説だ。さまざまな困難に立ち向かい、時に挫折しながら夢に向かって生きてきた充足が詰まっている。

他にも紹介したい本はたくさんあるが、紙幅が尽きてしまった。他にないかと問われれば、いつでもお教えしよう。いつか、どれか1冊でも読んで方と語り合いたいものだ。



『黒牢城』
米澤穂信著
(KADOKAWA)



『白光』
朝井まかて著
(文藝春秋)

内藤 麻里子

1959年長野県生まれ。慶応大学法学部法律学科卒。87年に毎日新聞社に入社し、宇都宮支局などを経て92年から学芸部。2000年から文芸を担当し、名物記者として活躍する。編集委員を務め、19年7月に退社。現在は文芸ジャーナリスト、書評家として活動する。毎日新聞のコラム「エンタメ小説今月の推し！」、小説現代の「書評現代 エッセイ・ノンフィクション」（いずれも隔月）などを連載中。




新年お慶び申し上げます



高野山真言宗
総本山金剛峯寺

管座長 葛西 光義
 執行総長 今川 泰伸
 宗務総長 近藤 本淳
 総務部長 桐生 俊雅
 国際学部長 加藤 栄俊
 法務部長 竹井 成範
 執行山林部長 津田 哲哉
 S.O.S.推進部長 藪 邦彦
 宗務総長公室長 岸本 優宏
 御誕生法事務局長 藤本 善光
 信徒局長 岸本 優宏
 内事長 藤本 善光
 社会人権局長 藤本 善光
 教学部次長 後藤 友栄
 国際局長代理 立場 了禅
 教学部次長 大森 照龍
 霊宝館館長 仁賀 大善
 奥之院維那 目黒 寿典
 伽藍維那 永崎 亮寛
 高野山東宗別院主監 柏田 良辯
 高野山京部別院主監

〒648 0211 和歌山県伊都郡高野町高野山一三二
 TEL 0736(五六一)2011
 FAX 0736(五六)4640



新年お慶び申し上げます



曹洞宗宗務庁

管長 南澤 道人
 宗務総長 鬼生田 俊英
 参議 熊谷 紘全
 参議 石橋 晋哉
 総務部長 橋本 壽幸
 人事部長 成田 隆真
 財政部長 服部 秀世
 教学部長 小林 孝道
 教化部長 浅川 信隆
 出版部長 藤間 良信
 伝道部長 岩井 秀弘


東京都港区芝二一五-1
 〒105 8544 TEL 03(3454)5411
 ▼曹洞宗公式サイト「曹洞禅ネット」
<https://www.sotzen-net.or.jp/>

竿頭の先に
未来をひらく

臨濟宗妙心寺派宗務本所

管長 小倉 宗俊
 宗務総長 野口 善敬
 総務部長 堀尾 行覚
 花園会館長(兼) 堀尾 行覚
 教学部長 足立 宜了
 財務部長 真常 紹天
 本部会長 小林 秀嶽
 花園会 吹田 良忠
 法務部長


〒616 8034 京都市右京区花園木辻北町一
 TEL 075(四六三)3111
 FAX 075(四六三)3111
<https://www.nyoshinji.or.jp/>



浄土真宗本願寺派

総長 石上 智康
 総務 池田 行信
 総務 武野 公昭
 総務 日谷 照應
 副総務 弘中 貴之
 副総務 荻野 昭裕
 宗務組織構築改革推進本部長 霍野 廣紹
 親鸞聖人御誕生八百年立教開宗八百年法要法務部長 玉井 昭英
 同総務本部長 原田 晃耀
 同教化本部長 野瀬 善隆


〒600 6501 京都市下京区堀川通花屋町下る
 浄土真宗本願寺派宗務所
 TEL 075(三七二)五一八一
 FAX 075(三五)一三七一
<https://www.honganji.or.jp/>



天台宗

天台座主 大樹 孝啓
 宗務総長 阿部 昌宏
 総務部長 小林 祖承
 参事 甘井 亮淳
 参事 船戸 俊宏
 参事 岩田 真亮
 参事 柴田 真成
 参事 竹内 純照

〒520 0113 大津市坂本四丁目六番二号
 TEL 077(五七九)0022
 FAX 077(五七九)2516
<http://www.tendai.or.jp/>



真宗大谷派

宗務総長 木越 涉
 参議 望月 慶子
 宗務改革推進本部長 齊藤 法顕
 首都圏教化推進本部長 酒井 良
 参議 古賀 堅志
 儀式指導 尾畑 英和


〒600 8505 京都市下京区烏丸通七条上る
 常葉町七五四
 TEL 075(三七二)九一八一
<http://www.higashihonganji.or.jp/>

〈慶讃テーマ〉
南無阿弥陀仏
人と生まれたことの
意味をたずねていこう

真言宗智山派宗務庁
総本山智積院

管主 布施 淨慧
 宗務総長 芙蓉 良英
 総務部長 三神 栄法
 教学部長 山川 弘巳
 教化部長 服部 融亮
 法務部長 大森 真弘
 財務部長 日下 敬啓
 宗務出張所長 倉田 隆伸

〒605 0951 京都市東山区東大路七条下ル
 東瓦町九六四
 TEL 075(五四一)五三六一
<http://www.chisan.or.jp/>



浄土宗

「浄土宗二十一世紀劈頭宣言」
愚者の自覚を
家庭にみ仏の光を
社会に慈しみを
世界に共生を


浄土門主 伊藤 唯眞
 宗務総長 川中 光教
 宗務役員 名越 邦博
 宗務役員 光岡 素生
 宗務役員 宮林 雄彦
 企画調整室長 杉森 隆志
 職員 一同

浄土宗宗務庁
 〒605 0062 京都市東山区林下町四〇〇、八
 TEL 075(五二五)二二〇〇
 FAX 075(五二五)五一〇五
 〒105 0011 東京都港区芝公園四・七・四
 TEL 03(三四三六)三三五一
 FAX 03(三四三四)〇七四四
<https://jodo.or.jp/>

真言宗豊山派宗務所

管主 浅井 侃雄
 宗務総長 鈴木 常英
 総務部長 岩脇 彰信
 教化部長 小島 恵真
 財務部長 細沼 秀行
 教務部長 氏家 拓譽
 教化センター長 小林 政彦
 真言宗豊山派総合研究院長 高橋 尚夫

〒112 0012 東京都文京区大塚五・四〇、八
 真言宗豊山派宗務所
 TEL 03(三九四五)〇六三九
<http://www.buzan.or.jp/>



日蓮宗

宗務総長 田中 恵紳
 伝道局長 柳下 俊明
 総務局長 光岡 潮慶
 伝道部長 藤田 尚哉
 教務部長 川久保 光隆
 総務部長 畑 栄明
 財務部長 山田 光映
 宗務総長室長 鶏内 泰寛
 日蓮宗現代宗教研究所長 赤堀 正明
 参議 渡邊 義生
 参議 田中 智海
 日蓮宗新聞社長 安芸 栄祥

日蓮宗宗務院
 〒146 8544 東京都大田区池上一・三二・一五
 TEL 03(三七五)七一八一
 FAX 03(三七五)七一八六
<https://www.nichiren.or.jp/>

新年お慶び申し上げます



融通念佛宗 総本山大念佛寺

管 長 吉村 暲英

宗務総長 田中 瑞修

寺務総長

教学部長 吉井 良久

法務部長

庶務部長 好野 良博

會計部長 佐々木 智祥

〒547-0045 大阪市平野区平野上町一七二六
TEL 〇六(六七九)〇〇二六
FAX 〇六(六七九)三〇五〇
<http://www.dainenbutsuji.com>

法華宗(陣門流)

管 長 門谷 日悠

宗務総長 西山 英仁

総務部長 牧野 秀成

企画部長 金原 孝宜

財務部長 西山 聡達

教学部長 布施 義高

教化部長 松吉 慶憲

宗務参事 田中 隆寛

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨五三五六
TEL 〇三(三九一)七二九〇
FAX 〇三(三五六)〇一一一

顕本法華宗

管 長 大川 日仰

宗務総長 河野 時巧

宗務次長 小松 正学

財務部長 吉田 諦規

布教部長 小川 正展

教務部長 朝倉 俊泰

庶務部長 金坂 正道

社会部長 森田 修應

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九十一
TEL 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

一般財団法人 埼玉県佛教会

会 長 倉持 秀裕

副会長 加藤 玄静

同 条原 恒久

専務理事 深谷 雅良

常務理事 山口 正純

同 河野 亮玄

同 馬場 知行

同 井倉 賢照

事務局 金子 嘉広

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂 四一三・一八
TEL 〇四八(八六一)二一三八
FAX 〇四八(八六四)六六四九
<http://saijutu.net/>

神奈川県仏教会

会 長 佐藤 功岳

副会長 井澤 孝一

同 菅原 節生

同 高作 泰寛

同 河本 岡文

事務局 山本 昭弘

〒231-0859 横浜市中区大平町九六 西有寺内
TEL 〇四五(六六一)〇一六六

新年お慶び申し上げます



天台真盛宗 総本山西教寺

貫 首 長 武田 圓寵

宗務総長 前阪 良憲

社会部長 蜂谷 眞勝

庶務部長 色井 秀宰

教学部長 石田 義光

財務部長 大上 良雅

〒520-0113 滋賀県大津市坂本五三三一
TEL 〇七七(五七八)〇〇一三
FAX 〇七七(五七八)三四一八

天台寺門宗

管 長 村上 法照

宗務総長 金子 嘉純

教学部長 小林 慶明

財務部長 明石 清澄

修験道部長 秋田 幸輝

庶務部長 加藤 明信

録 事 三島 宗覚

〒520-0036 滋賀県大津市園城寺町二四六
TEL 〇七七(五二二)五一一〇
FAX 〇七七(五二二)五一二八

大日本佛法最初 四天王寺

管 長 加藤 公俊

執行部長 瀧藤 尊淳

勸学部長 南谷 恵敬

総務部長 吉田 明良

法務部長 新井 順證

学校教育部 宮崎 光映
四天王寺学園 常務理事

学校教育部 森田 惇朗
四天王寺学園 常務理事

社会福祉部 塚原 昭應
四天王寺福祉事業団 常務理事

社会福祉部 坂本 峰徳
四天王寺福祉事業団 常務理事

〒543-0051 大阪府大阪市天王寺区四天王寺一丁目十一番十八号
TEL 〇六(六七七)〇〇六六
FAX 〇六(六七七)四九二一
<http://www.shitemoji.or.jp>

聖徳太子 千四百年御聖忌
自 令和3年10月18日
至 令和4年4月22日

総本山仁和寺 真言宗御室派

管 門 長 跡 瀨川 大秀

執行部長 吉田 正裕

総務部長 鴨井 智峯

執行部長 長岡 誠宏

執行部長 大石 隆淳

〒616-8092 京都市右京区御室大内三三
TEL 〇七五(四六一)一一五五
FAX 〇七五(四六四)四〇七〇
<http://ninnaji.jp>

真言宗醍醐派宗務本庁 総本山醍醐寺事務所

座 管 主 長 仲田 順和

宗務総長 壁瀬 宥雅

総務部長 仲田 順英

執行部長 浦郷 宜右

財務部長 三好 祥徳

〒610-1325 京都市伏見区醍醐東大路町二二
TEL 〇七五(五七一)〇〇〇二
FAX 〇七五(五七一)〇一〇一
<http://www.daijogu.or.jp>

新年お慶び申し上げます



**聖観音宗
浅草寺**

貫首 田中 昭徳

執事長 守山 雄順

〒111 538
TEL 0032
FAX 0032
東京都台東区浅草二・三・一
〇三(三八四二)〇一八一
〇三(三八四五)六九三三

**金峯山修験本宗
総本山金峯山寺**

管長 五條 良知

宗務総長 五條 永教

執行長 五條 永教

〒639 3115
TEL 〇七四六(三二)八三七一
FAX 〇七四六(三二)四五六三
吉野山二四九八
http://www.kinpusen.or.jp

念法真教

総本山小倉山金剛寺

燈主 桶屋 良祐

〒538 0054
TEL 〇六(六九一一)二一〇一
FAX 〇六(六九一一)二一〇一
http://www.nenpoushinkyou.jp

孝道教団

統理 岡野 正純

〒221 0064
TEL 〇四五(四三二)一一〇一
FAX 〇四五(四三四)一一八八
横浜市神奈川区鳥越三八

**真言宗須磨寺派
大本山須磨寺**

貫主 小池 弘三

〒654 0071
TEL 〇七八(七三二)〇四一六
FAX 〇七八(七三二)〇四一六
神戸市須磨区須磨寺町四・六・八

**真言宗大覚寺派
大本山大覚寺**

管跡長 尾池 泰道

宗務総長 伊勢 俊雄

執行長 伊勢 俊雄

大覚寺寺号勅許(開創)
一一五〇年記念法会令和八年厳修

〒616 8411
TEL 〇七五(八七一)〇〇七一
FAX 〇七五(八七一)〇〇五五
京都市右京区嵯峨大沢町四
https://www.daikekuji.or.jp

**真言三寶宗
大本山清澄寺**

法主 坂本 光謙

宗務長 國定 道晃

執行長 森藤 晃正

鉄斎美術館 森藤 光宣

〒665 0837
TEL 〇七九七(八六)六六四一
FAX 〇七九七(八六)六六六〇
宝塚市米谷字清シ一番地
http://www.kiyoshiko.jp

**真言宗中山寺派
大本山中山寺**

長老 今井 淨圓

〒665 8588
TEL 〇七九七(八七)〇〇二四
FAX 〇七九七(八七)九八七七
宝塚市中山寺二丁目十一・一
https://www.nakayamadera.or.jp

東寺真言宗

宗務総長 吉村 増亮

〒601 8473
TEL 〇七五(六七二)三七一七
FAX 〇七五(六六一)六八五六
京都市南区九条町一
東寺真言宗宗務庁

**信貴山真言宗
総本山朝護孫子寺**

管長 鈴木 貴晶

前管長 野澤 密孝

元管長 田中 貞瑞

〒636 0923
TEL 〇七四五(七二)二二七七
奈良県生駒郡平群町信貴山
二二八〇一

新年お慶び申し上げます



愛知県仏教会

顧問 吉田 教行

会長 舎人 経昭

副会長 渡邊 徳温

副会長 山田 泰信

副会長 岩木 涼山

理事長 林 大晃

事務局長 濱口 寛朗

〒466 0051
TEL 〇五二(八二五)七一六
FAX 〇五二(八二五)七一六
名古屋昭和区御器所三・三五・十八
久松寺内

京都府仏教連合会

理事長 木越 昭英

理事 武田 弘

井口 善敬

野口 英

芙蓉 雅

壁瀬 一妙

橋本 宥

竹内 文成

奥垣 圭哲

佐藤 泰慎

長谷 雄祐

村山 孝純

石河 法寛

石津 幸次

井上 正顕

土江 賢邦

加藤 良祥

秦藤 直樹

八木 高顕

赤塚 浄明

佐野 充照

浦野 正純

稲岡 純

西山 惠龍

安山 真源

安田 真源

柏田 良

八幡 覺

事務局長 梯 宗

監事 梯 宗

評議員 梯 宗

〒600 8505
TEL 〇七五(三七二)九一八二
FAX 〇七五(三七二)一一一四
京都府京都市下京区鳥丸通七条上る
堂業町754番地

島根県仏教会

昨年十月二日に
第四十五回全日本仏教徒会議
島根大会を円成いたしました。
皆様のご支援に
厚く御礼申し上げます。

会長 清水谷 善圭

副会長 伊東 充伸

同 吉田 明弘

同 柳楽 一学

同 茶円 宥勝

事務局長 池上 幸秀

〒692 0404
TEL 〇八五四(三二)二二二八
FAX 〇八五四(三二)二二二六
島根県安来市公瀬町広瀬一四三二
洞光寺内

**公益財団法人
仏教伝道協会**

会長 木村 清孝

理事長 桂 紹隆

常務理事 青木 晴美

理事 門脇 邦彦

理事 野村 邦武

理事 沼田 恵明

理事 生田 忠士

理事 塩入 亮乗

監事 中野 東禅

監事 松村 智司

〒108 0014
TEL 〇三(三四五五)五八五一
FAX 〇三(三七九八)二七五八
東京都港区芝四丁目三・一四
https://www.bdk.or.jp

**公益社団法人
日本仏教保育協会**

名誉会長 八木 季生

理事長 高山 久照

副理事長 高輪 真澄

副理事長 高田 道雄

副理事長 日野 昭文

副理事長 野村 定弘

伝えよう
生命の尊さ
ほとけの心

010保

〒105 0011
TEL 〇三(三四三)七四七五
FAX 〇三(三四三)一五一九
東京都港区芝公園四・七・四
明照会館二階

新年お慶び申し上げます



北海道仏教会連盟

会 長 沙々木学海

〒060 0003 札幌市中央区北三条西十九丁目二、一
浄土真宗本願寺派北海道教区教務所内
TEL 〇一一(六一) 九六二三

真言律宗 総本山西大寺

真言律宗宗務長 松村 隆誉
総本山西大寺長老
執事 長 辻村 泰範

〒631 0825 奈良市西大寺芝町一丁目一の五
TEL 〇七四二(四五) 四七〇〇
FAX 〇七四二(四五) 四七二〇

福島県仏教会

会 長 山口 修譽

専務理事 中村 正真
事務局 長 阪波 亮信

〒965 0044 福島県会津若松市七日町八、四八
TEL 〇二四二(二二) 一六八九

青森県仏教会

会 長 上田 祥悦

監 事 村田 学風
監 事 金山 晃道
事務局 長 上田 宗廉
事務局 中谷 正幸
事務局 若狭谷 良行
会 計 大橋 協司

〒031 0813 青森県八戸市新井田寺ノ上十三、一
TEL 〇一七八(二五) 五二四五
FAX 〇一七八(二五) 二四〇六

東京都仏教連合会

会 長 山田 一眞

理事長 新美 昌道

〒111 0036 東京都台東区松が谷二、十九、七
TEL 〇三(三八四四) 九五九七
FAX 〇三(三八四四) 三一七七

茨城県仏教会

会 長 岸野 教司

副会長 黒澤 彰哉
副会長 徳永 光由
副会長 奥田 俊裕
副会長 倉持 達哉

〒306 0642 茨城県坂東市長谷一八五〇、一
TEL 〇二九七(三六) 八二五五
FAX 〇二九七(三六) 八二五五

静岡県仏教会

会 長 川村 敬亮

〒411 0803 静岡県三島市大場三六〇
TEL 〇五五(九七七) 三八八一

山梨県仏教会

会 長 近藤 英夫

副会長 鈴木 哲
副会長 一瀬 幾真
顧問 松永 直樹

〒409 1303 山梨県甲州市勝沼町小俣手〇四六
TEL 〇五五三(四四) 二七一九
FAX 〇五五三(四四) 二七一九

大阪府佛教会

会 長 村山 廣甫

副会長 森 快隆
同 藪木 恵照
同 瀧藤 尊淳
同 清澤 悟
同 丹農 秀知
同 立石 泰教
事務局 長 二上 寛弘

〒552 0021 大阪市港区築港一、十三、三釋迦院内
TEL 〇六(六五七) 五七一〇

一般財団法人 京都仏教会

理事長 有馬 頼底
常務理事 宮城 泰年
同 坂口 博翁
同 佐分 宗順
事務局 長 長澤 香静

〒602 0898 京都府京都市上京区今出川通
TEL 〇七五(二二三) 六九七五
FAX 〇七五(二二三) 六九七六

新年お慶び申し上げます



真宗高田派 本山専修寺

宗務総長 増田 修誠

総 務 藤谷 知良
総 務 弓削 弘胤

〒514 0114 三重県津市一身田町二八一九番地
TEL 〇五九(二三二) 四一七一
FAX 〇五九(二三二) 一四一四

西山浄土宗 総本山光明寺

法 主 中西 随功

宗務総長 土江 賢祥

〒617 0811 京都府長岡京市粟生西条の内
TEL 〇七五(九五五) 〇〇〇二
FAX 〇七五(九五三) 二二六四
東京別院 東京都町田市小山ヶ丘一、二一
TEL 〇四二(七九四) 八五八五
http://www.komyo-ji.or.jp/

臨済宗南禅寺派 大本山南禅寺

〒606 8435 京都市左京区南禅寺福地町八六
TEL 〇七五(七七) 〇三六五
FAX 〇七五(七七) 六九八九

時宗 総本山清浄光寺

宗務総長 神田 普照

〒251 0001 神奈川県藤沢市西富一八、一
TEL 〇四六六(二三) 七二七六

臨済宗相国寺派 大本山相国寺

管 長 有馬 頼底

宗務総長 佐分 宗順

〒602 0898 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL 〇七五(二三) 〇三〇一
FAX 〇七五(二二) 三五九一
http://www.shokoku-ji.jp

臨済宗円覚寺派 大本山円覚寺

管 長 横田 南嶺

宗務総長 永田 正和

〒247 0062 鎌倉市山ノ内四〇九
TEL 〇四六七(二二) 〇四七八
FAX 〇四六七(二三) 三〇二七
http://www.engakuji.or.jp

法華宗(本門流)

一天四海皆歸妙法 お題目総下種運動
咲かそう、いのち
—宗祖日蓮大聖人聖誕800年—

〒103 0013 東京都中央区日本橋人形町二、一九、一
TEL 〇三(五六) 三〇五五
FAX 〇三(五六) 三〇五六
http://www.hokkeshu.or.jp

黄檗宗 大本山萬福寺

管 長 近藤 博道

宗務総長 荒木 将旭

二〇二二年 宗祖隱元禪師三五〇年大遠譚
350 開宗350年大遠譚

〒611 0011 京都府宇治市五ヶ庄三番割三四
TEL 〇七七四(三二) 三九〇〇
FAX 〇七七四(三二) 六〇八八

本門佛立宗 本山宥清寺

講 有 高須 日良

宗務総長 新井 日現

〒602 8336 京都市上京区一条通七本松西入
TEL 〇七五(四六) 四六二〇
FAX 〇七五(四六) 四六六一
本門佛立宗 宗務本庁
〒602 8377 京都市上京区御通一条上
TEL 〇七五(四六) 一六六六
FAX 〇七五(四六) 五五九九
京都佛立ミュージアム
TEL 〇七五(二八) 三三四四
URL http://www.hbmsuseum.jp

法華宗(真門流)

管 長 上田 日猷

宗務総長 堀内 浩善
総務部長 坂本 法保
教学部長 峰尾 泉栄
教化部長 舟積 法宏
社会部長 水野 智悠
財務部長 掘 雅博

〒602 8447 京都市上京区智恵光院通五辻上
TEL 〇七五(四四) 五七六二
FAX 〇七五(四四) 五七六六
http://www.hokkeshu.jp

新年お慶び申し上げます



妙見宗
新義真言宗
真言宗善通寺派
真言宗山階派
真言宗泉涌寺派
真言宗国分寺派
真言宗大鳴派
浄土宗西山禅林寺派
浄土宗西山深草派
真宗佛光寺派
真宗興正派
真宗木辺派
臨濟宗建長寺派
臨濟宗天龍寺派
臨濟宗東福寺派
本門法華宗
法相宗
聖徳宗
華嚴宗
律宗

岩手県仏教会
栃木県仏教会
群馬県仏教連合会
千葉県仏教会
新潟県仏教会
石川県仏教会
福井県仏教会
長野県仏教会
岐阜県仏教会
滋賀県仏教会
和歌山県仏教会
鳥取県仏教連合会
(一社)徳島県仏教会
香川県仏教会
高知県仏教会
福岡県仏教連合会
長崎県仏教連合会
熊本県仏教会
宮崎県仏教連合会
沖縄県仏教会
(公財)国際仏教興隆協会
東京ブディストクラブ



寅

新年お慶び申し上げます



兵庫県佛教会

会 長 金井 孝顕
〒652 0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通
五丁目二・一 感應寺内
TEL 〇七八(五七五)〇八四一
FAX 〇七八(五七六)六二〇三

岡山県佛教会

会 長 本山 瑞峰 (倉敷市 般若院)
副会長 嵯峨山 智昭 (岡山市 徳壽寺)
同 石原 伸俊 (倉敷市 聖蓮寺)
事務局 守安 秀行 (倉敷市 西方寺)
事務局(西方寺)
〒710 0141 岡山県倉敷市串田五一
TEL 〇八六(四八五)〇三二七
FAX 〇八六(四八五)〇三二七

愛媛県仏教会

会 長 仁田 喜潤
副会長 越智 瑞啓
副会長 白石 圭二
監事 水崎 寛文
監事 宮本 尚道
林智 尚道
越智 尚道
児島 一晴
吉川 俊宏
斎藤 友宏
福村 俊弘
顧問 問 斎藤 友宏
顧問 問 福村 俊弘
〒790 0814 愛媛県松山市味酒町二十七番寺内
TEL 〇八九(九四一)四四七五
FAX 〇八九(九三四)一六五四

公益社団法人 全日本仏教 婦人連盟

会 長 東伏見 具子
副会長 加用 稔子
同 吉田 真理
理事長 花岡 真理子
〒151 0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 四・五・十一・二〇五
TEL 〇三(五七七二)〇六七七
FAX 〇三(六四三四)〇一八四
http://jwvf.jp
E-mail:jwvf@jwvf.jp

一般社団法人 日本仏教鑽仰会

代表理事 中山 齊栄
〒174 0041 東京都板橋区舟渡四・十五・一
TEL 〇三(三九六七)三二八八
https://bukkyo-seminar.jp
info@bukkyo-seminar.jp

全日本仏教青年会

事務局長 西郊 良貴
事務局長 上田 昭憲
事務局 埼玉県新座市馬場一九・三蓮光寺
〒352 0016
TEL 〇四八(四七八)五六七一
FAX 〇三(六六八五)三三八六
E-mail: info@jybne.jp
URL: https://www.jybne.jp



一般社団法人 仏教情報センター

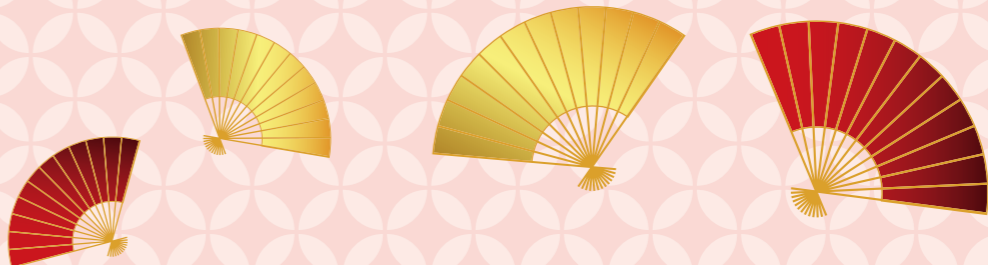
理事長 白川 淳敬
副理事長 平井 良昌
副理事長 本間 孝継
〒113 0033 東京都文京区本郷一四六二〇二
TEL 〇三(三八一三)六五七七
FAX 〇三(三八一三)六七九四

日韓仏教交流協議会

会 長 藤田 隆乘
副会長 柴田 哲彦
理事長 西郊 良光
事務総長 渡邊 真行
〒210 8521 神奈川県川崎市川崎区 大師町四・四八
TEL 〇四四(二六六)三四二〇
FAX 〇四四(二七七)八一六三

賛助会員

【特別会員】
大本山東福寺 原田 融道
蓮華院誕生寺 川原 英照
尾道仏教会 大塚 敏樹
實相山中央寺 熊谷 忠興
信州善光寺 若麻績 享則
一般社団法人仙台仏教会 伊達 廣三
壺阪山南法華寺 常盤 勝範
築地本願寺



新年お慶び申し上げます



新年お慶び申し上げます



賛助会員

- 【団体会員】
 - 京セラ株式会社(電子機器製造)
 - 東映株式会社(映画)
 - 株式会社カナメ(建築)
 - 大建工業株式会社 置材部(建築)
 - 大建建設株式会社(建設)
 - 住友林業株式会社(住宅・建築事業本部(住宅・建築事業)
 - 損害保険ジャパン株式会社(保険)
 - 大和証券株式会社 営業サポート部(ビジネスサポート)
 - 野村證券株式会社 金融公共公益法人部(金融)
 - 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 本店金融公共法人第一部(金融)
 - 株式会社大陸旅遊(旅行)
 - 株式会社ビーエス観光(旅行)
 - 株式会社JTB 新宿第一事業部(旅行)
 - KNITTINGホールディングス株式会社 グループ事業推進本部 営業推進部(旅行)
 - 東武トップツアーズ株式会社(旅行)
 - 日本テンプルブツアーン株式会社(寺院経営コンサルタンツ)
 - 株式会社阪神総商(寺院サポートコンサルティング)
 - 株式会社アンカレッジ(寺院運営サポート・企画)
 - 有限会社新宿アカウンティングオフィス(経営コンサルティング)
 - 株式会社縁(社寺仏閣総合リスクコンサルタンツ)
 - SinfiniteV株式会社(神社仏閣の総合経営支援)
 - 株式会社東海大阪レンタル(イベント・レンタル)
 - 株式会社エコ・マイニング(環境・エネルギー)
 - FTエナジー株式会社(電力・エネルギー)
 - ティケイ・ヘンデルアート(印刷)
 - 株式会社オメガ・コミュニケーションズ(翻訳、出版物企画・制作)
 - 株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーション(出版物企画・制作)
 - 新日本法規出版株式会社(法規図書出版)
 - 株式会社廣済堂(印刷・IT・Web・求人広告・人材サービス)
 - キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社(印刷・機器販売)
 - 株式会社漫画家学会(漫画・紙芝居)
 - 株式会社ルンビニ(保険代理店)
 - 株式会社サウンドファン(音のバリアフリー開発・製造・販売)
 - 株式会社大塚商会(システム機器、ソフトウェアの販売)
 - 株式会社京念珠刑部(念珠製造・販売)
 - 株式会社小堀(仏壇仏具製造・販売)
 - 株式会社若林芸舎(文化財保存修理)
 - 株式会社公益社(葬祭)
 - 株式会社ダイセイ(総合商社)

- 株式会社いせや(石材)
- 株式会社AVENUE(お寺の窓口運営・WEB制作)
- グレートインフォメーション株式会社(システム開発運営・WEB制作)
- 株式会社おぎそ(高強度磁器食器の製造、販売)
- TERRA Energy株式会社(小売電力)
- 株式会社ミライロ(ユニバーサルデザイン)
- 株式会社鎌倉新書(終活支援)
- 株式会社ミツウロコヴェッセル(電力・エネルギー)
- 株式会社オフィスワイズ(プロモーション企画)
- イワト株式会社みのはん(寺院向け業務用品通信販売)
- 株式会社セルフネン(建築材料)
- 株式会社ドリム(音響機器)
- 株式会社ファーストコレクション(食品)
- 三協美術印刷株式会社(写植・製版)
- 株式会社船井総合研究所(経営コンサルティング)
- 日本仏教看護・ビハラ学会
- 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所
- 一般財団法人ライフプランニングセンター
- 一般財団法人100万人のクラシックライプ
- 一般社団法人L.O.S相談センター
- 一般社団法人仏教検定協会
- 一般社団法人PRAY for ONE
- 一般社団法人日本地域振興新聞社
- 一般社団法人良いお寺研究会
- 一般社団法人Project Gamon
- 全日本宗教用具協同組合
- 全日本葬祭業協同組合連合会
- 岩手県葬祭業協同組合
- 埼玉県葬祭業協同組合
- 東京都葬祭業協同組合
- 神奈川県葬祭業協同組合
- 岐阜県葬祭業協同組合
- 岐阜県葬祭業協同組合
- 名古屋葬祭業協同組合
- 愛知県葬祭業協同組合
- 京都中央葬祭業協同組合
- 大阪葬祭業協同組合
- 福岡県葬祭業協同組合
- 長崎県葬祭業協同組合
- 一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会
- 一般社団法人日本石材産業協会
- 一般社団法人遺品整理士認定協会
- 准秩父親音霊場三十四札所

【個人会員】

- 稲盛 和夫(京セラ株式会社名誉会長)
- 社本 公一(公認会計士)
- 龍泉寺 佐々木 誠宗(秋田県)
- 護勢寺 菅原 公守(宮城県)
- 福聚院 伊達 廣三(宮城県)
- 慈願寺 池田 行信(栃木県)
- 東榮寺 大森 篤史(埼玉県)
- 法瑠寺 矢島 浄純(埼玉県)
- 建福寺 安野 正樹(埼玉県)
- 光明寺 石上 智康(千葉県)
- 萬福寺 垣内 善勝(東京都)
- 妙定院 小林 正道(東京都)
- 浄心寺 佐藤 雅彦(東京都)
- 玉林禅寺 長谷 琢堂(東京都)
- 慶安寺 深澤 信善(東京都)
- 真照寺 堀井 隆川(東京都)
- 廣徳寺 板坂 光明(神奈川県)
- 清水寺 久喜 和裕(神奈川県)
- 大蔵寺 佐藤 直道(神奈川県)
- 金蔵院 眞田 有快(神奈川県)
- 龍泉寺 壽山 良光(神奈川県)
- 圓滿寺 西郊 良光(神奈川県)
- 正泉寺 野澤 隆幸(神奈川県)
- 重蓮寺 関崎 幸孝(新潟県)
- 玄向寺 荻須 眞教(長野県)
- 本光寺 木村 光正(静岡県)
- 観音寺 石原 峰志(愛知県)
- 寂光院 松平 實胤(愛知県)

- 妙見閣寺 松井 英光(大阪府)
- 太福寺 佐久間 大道(兵庫県)
- 善隆寺 杉浦 栄俊(兵庫県)
- 吉祥院 曾我 龍慶(兵庫県)
- 精明寺 疋田 哲壽(鳥取県)
- 定林寺 田邊 学成(岡山県)
- 龍仙寺 武田 昭英(広島県)
- 誓光寺 村上 智真(山口県)
- 西光寺 高橋 篤法(大分県)
- 波邊 永(宮城県)
- 小田 卓也(千葉県)
- 鈴木 朝雄(千葉県)
- 小川 昌美(東京都)
- 北野 讓治(東京都)
- 小林 昇(東京都)
- 平 みきお(東京都)
- 高田 華聖(東京都)
- 鳥居 邦夫(東京都)
- 村松 朱実(東京都)
- 其田 寿一(東京都)
- 天久保 貴(神奈川県)
- 君和田 茂男(神奈川県)
- 木村 匡成(神奈川県)
- 佐藤 泰之(神奈川県)
- 中村 美津江(神奈川県)
- 東田 樹治(神奈川県)
- 松田 健(神奈川県)
- 松村 一平(神奈川県)
- 霧林 健(神奈川県)

- 山崎 忠征(和歌山県)
- 安田 容造(京都府)
- 山口 展弘(福岡県)
- 井上 美和子(佐賀県)
- 塩月 光夫(宮崎県)
- 邊見 由峰(香川県)
- 岩屋 毅(衆議院議員)
- 枝野 幸男(衆議院議員)
- 大串 博志(衆議院議員)
- 金子 恭之(衆議院議員)
- 上川 陽子(衆議院議員)
- 小島 敏文(衆議院議員)
- 佐藤 公治(衆議院議員)
- 関 芳弘(衆議院議員)
- 高市 早苗(衆議院議員)
- 原口 一博(衆議院議員)
- 平沢 勝栄(衆議院議員)
- 前原 誠司(衆議院議員)
- 牧島 かれん(衆議院議員)
- 松本 謙公(衆議院議員)
- 松本 剛明(衆議院議員)
- 大塚 耕平(衆議院議員)
- 片山 さつき(衆議院議員)
- 片山 大介(衆議院議員)
- 斎藤 嘉隆(衆議院議員)
- 武見 敬三(衆議院議員)
- 中川 雅治(衆議院議員)
- 二之湯 智(衆議院議員)
- 白 眞勲(衆議院議員)

- 福山 哲郎(衆議院議員)
- 大野 元裕(埼玉県知事)
- 早坂 義弘(東京都議会議員)
- 赤松 広隆(元衆議院議員)
- 浅尾 慶一郎(元衆議院議員)
- 荒井 聰(元衆議院議員)
- 大塚 高司(元衆議院議員)
- 河村 建夫(元衆議院議員)
- 佐藤 ゆかり(元衆議院議員)
- 野田 毅(元衆議院議員)
- 松本 文明(元衆議院議員)
- 三原 朝彦(元衆議院議員)
- 岩城 光英(元衆議院議員)
- 佐藤 泰介(元衆議院議員)
- 鈴木 寛(元衆議院議員)
- 鈴木 政二(元衆議院議員)
- 藤谷 光信(元衆議院議員)

第5回花まつりデザイン大賞発表！

ポスター大賞作品



「花咲く中で、ひと休み…」
野崎淳之介さん

【コメント】
まだまだ収まらないコロナ禍。様々な制約があり疲弊しきった世の中ですが、そんな世の中だからこそ、あえてひと休みしませんか？お釈迦様も天上の象と一緒にひと休みしています。

ポスター大賞作品

(満12歳以下)



「だいすきおしゃかさま」
浮村聡一さん

【コメント】
ぼくが幼稚園の「花まつり」でお友達と一緒に甘茶を捧げたところを描きました。

絵はがき大賞作品



「はなばなと」
榎田 歩さん

【コメント】
お釈迦様の周りに花御堂や瓔珞などを基にデザインした唐草模様と花をあしらひ、華やかな雰囲気になりました。また、穏やかで親しみを持ってもらえるような絵になるよう心掛けました。

受賞されたみなさま、おめでとうございます。頒布・配布については巻末をご覧ください。

第33回理事会報告

第35期会長・副会長の推戴が承認

11月10日に開催した第33回理事会において、第35期会長・副会長の推戴に関する議案が上程され、全会一致で原案通り承認された。協議事項として、来年度事業計画大綱（案）、来年度予算大綱（案）について上程され、全会一致で賛同された。その他、報告事項として、理事長より事業に関する各部報告をした。

【第33回理事会概要】

日 時：令和3年11月10日午後3時30分
会 場：しんらん交流館会議室
出席理事：16名（20名中）
出席監事：2名（3名中）
議 長：戸松義晴第34期理事長

TOKYO2020
オリンピック・パラリンピック
仏教ボランティア活動報告

期 間

2021年7月13日～8月11日（オリンピック）
2021年8月17日～9月8日（パラリンピック）

場 所

オンライン（ZOOM、メール）
※選手村内にカウンセリングルーム2部屋設置

（公財）全日本仏教会

第35期会長・副会長が決定

本会は、令和3年11月10日に開催した第33回理事会において、本会第35期会長・副会長を次の通り決定いたしました。伝統仏教界の象徴として、国内外問わず、様々な場で日本仏教を発信してまいります。

任期：令和4年4月1日から2年間

詳細なプロフィールは本会Webサイトより参照ください

第35期会長

大谷 暢裕

（おおたに ちようゆう）

真宗大谷派門首



第35期副会長

五條 良知

（ごじょう りょうち）

金峯山修験本宗管長

第35期副会長

近藤 英夫

（こんどう ひでお）

山梨県仏教会会長

第35期副会長

高山 久照

（たかやま きゆうしょう）

公益社団法人日本仏教保育協会理事長



活動内容

ホームページ運営
メール対応

オンラインカウンセリング

※いずれも10時〜18時

1年延期となつて開催されたTOKYO 2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、様々な課題と向き合い感染防止対策を取りながら無事に円成した。各国アスリートや関係者が多く来日し、滞在先である選手村には食事やフィットネスルームなど生活サポートに加え、パフォーマンス能力を最大限に引き出すために心のケアやそれぞれの宗教的背景に配慮した精神面の支えとなる「多宗教サービス」も同時に準備されていた。

今大会においても国際オリンピック委員会（IOC）が定めるガイドラインに基づき5宗教（仏教・キリスト教・イスラム教・ユダヤ教・ヒンズー教）による宗教サービスを提供するため、東京都宗教連盟（都宗連）を実行委員会として準備が進められ、本会は都宗連の加盟団体である東京都仏教連合会からの協力要請を受けた。当初は多数の仏教ボランティアを募り、選手村内での儀式や面談など様々なボランティア活動に取り組みながら日本の仏教文化に触れていたたく予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全ての宗教サービスをオンラインで実施することが大会開催直前の多宗教サービス事務局会議により決定された。各宗教は提供す

る内容を根本から見直し、仏教による活動では専用ホームページを立ち上げ、オンラインによるカウンセリング相談に注力する運びとなった。

参加した仏教ボランティアは8名で、主に日本語・英語の2カ国語で対応しオリンピック・パラリンピック両大会を通じて45日間（全体53日間）の奉仕活動を実施した。アスリートや関係者の選手村滞在期間が大幅に短縮されたことや対面でのサービスが受けられないことも影響し、実際のカウンセリング申込は無かつたものの多宗教サービスが運営するホームページへのアクセス数は大会期間中852件に上り、宗教サービスへの関心やいざという場合の安心材料になっていったのではないだろうか。先行きが見通せない中、各宗教がそれぞれを尊重し合い協力体制が整えられたこと、今後、有事の際のオンライン対応の礎が築けたことは大きな成果の一つである。

仏教ボランティア（8名）

- 松岡広也（全日本仏教青年会）
- 石黒清美（全日本仏教青年会）
- 村山博雅（WFB日本センター運営委員会）
- 東海林良昌（WFB日本センター運営委員会）
- 王 仁興（WFB日本センター運営委員会）
- 戸松義晴（全日本仏教会）
- 柳池友絢（全日本仏教会）
- 下島章裕（全日本仏教会）

第34期第3回広報委員会

日時と出席者

日 時：令和3年10月20日
午後1時30分

場 所：全日本仏教会会議室
オンライン会議

- 出席委員：7名
- 代理出席：3名
- 出席事務局：4名
- オブザーバー：2名

進行

- 「三帰依文」唱和
- 事務総長挨拶
- 代理出席紹介
- 会議

オブザーバーによる説明

委員報告

意見交換

概要

令和3年10月20日、本会会議室からオンラインで広報委員会を開催した。開会にあたり木全和博事務総長より三帰依文、挨拶。続き、事務局より代理出席者を紹介した。会議に入り、株式会社朝日新聞A-Portの高野耀子氏・栗原悠氏より「クラウドファンディング（CF）について」の説明が行われ、説明後には各委員より所属団体で寺院等が活用した

CFの事例などが報告された。その後委員間にて種々意見を交わした。その他、事務局より来年の「花まつりポスター・絵はがき」の協力を要請し会議を終了した。

趣旨

古来、人々の心の拠り所であったはずの寺院。今では墓じまいや葬儀の簡略化、法事の縮小、果ては離檀といったケースも少なくありません。追い打ちをかけるように、昨年から猛威を振るうコロナ禍の影響。様々な対策を取りながらも、寺院は年中行事の中止や法事の延期、葬儀などに制限が設けられ、檀家・門徒・信徒をはじめとする地域の方々とのコミュニケーションも十分に取れない状況となり、管理運営もままならず存続の危機に瀕していると言えます。

そこで、クラウドファンディングを取り入れる寺院が増えてきていることに着目し、宗派や都道府県単位で活用することにより、いまこそ社会（または地域）に目を向けてもらい、そのサポートを受けながら、社会とお寺が一体となった姿を模索できるのではないかと期待が寄せられています。

各委員には、当講演を所属団体に対する一助としてお汲み取りいただき、宗派や都道府県仏教会を主体として、寺院が人々の希望となる様に、広報展開して頂きたくお願い致します。

賛助会員募集

本会では賛助会員を募集しております。全国の寺院をはじめ、企業や団体、個人としてご入会いただけます。入会等の詳細は本会Webサイトをご覧ください。



前号の訂正およびお詫び

- 21ページ2段目
（誤）令和三年四月十四日
（正）令和三年七月六日
- 22ページ2段目
（誤）宮川善勇熊本教区教務所長
（正）宮川善裕熊本教区教務所長

謹んでお詫び申し上げます。

「救援基金」寄附者一覧

【2021（令和3）年9月1日〜11月30日】

（時系列順・敬称略）

- 石井 陽一郎
- 齊藤 清美
- 郭 瑞蘭
- 大阪府佛教会
- 匿名希望 2件
- 全日本仏教徒会議島根大会 会場募金

総計 416,000円

「賛助会員」新規入会者一覧

【2021（令和3）年9月1日〜11月30日】

（時系列順・敬称略）

- （団体会員）
- 三協美術印刷株式会社
- 株式会社船井総合研究所
- 株式会社ドリーム
- （ご入会、誠にありがとうございます。）

祐天寺フードパントリー開催

日時：令和3年9月12日

午後3時〜午後4時半

場所：目黒祐天寺 裕光殿ロビー

食品配布数：35世帯分

概要

正午にスタッフ集合。集められた食品を1世帯分ずつBOXに入れて分ける。（必要に応じて、家族構成・体調等のデータを見

ながら仕分け作業。午後3時より配布予定だが、午後2時頃から利用者が来場し、順次受け渡し。事情がいろいろでも来場できない方数件を、NPOが配送または届けに伺う。午後4時半には全ての世帯が取りに来られる午後5時に後片付け完了。

趣旨

3月31日におこなった、シンポジウム「仏教とSDGs〜貧困について考える〜」にて、フードパントリーの提言があり、その具現化として、全日本仏教会が関わった最初のフードパントリー開催であった。

関わり方としては、まず目黒にある祐天寺様がパントリーの場所を提供していただけたというお話があった。その事をセカンドハーベスト・ジャパンにご相談したところ、目黒で開催するのならということで、フードバンク目黒を紹介していただいた。そこで、セカンドハーベスト・ジャパンと、フードバンク目黒、祐天寺、また、提言をいただいた磯村健太郎氏にも参加いただき、数回の打ち合わせを重ねて、9月12日に本会がご縁を繋ぐ形でフードパントリーが開催された。その後、祐天寺様とフードバンク目黒の協力体制が整い、その後数回定期的開催をしている。

今後祐天寺以外にも港区・目黒区の寺院でもフードパントリーを主催するNPO団体とお寺とのご縁を結ぶお手伝いを進めていく予定。